



## 九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No. 129

2010(平成22)年3月18日(木)発行

<1933(昭和8)年3月18日、大正昭和期の政治学者・思想家吉野作造の命日>○1878年宮城県生まれ。東大卒。東大教授。キリスト教的ヒューマニズムに立脚して文筆活動を展開。デモクラシーに「民本主義」の訳語を与え、普通選挙論や枢密院・貴族院権限縮小論、軍部改革を主張して、大正デモクラシーに理論的根拠を与えた。戦後の憲法研究会の鈴木安蔵の思想にも大きな影響を与え、日本国憲法の思想水脈の一つ。宮城県大崎市古川の「吉野作造記念館」は大変充実している。



▲千人針せんじんばり 出征兵士の幸運を祈って、家族が街頭に立ち、女性に一人ひと針ずつ赤い糸で縫ってもらった。(写真は大修館書店『新国語要覧』より)

梅の花も咲き始め、福寿草も顔を出し、春の味覚を満喫出来る幸せを感じながら大好きな春到来です。この様な平和を実感出来ますこと、振り返ってみる時、あの嫌な戦争という二度とあってはならない出来事を想い出さずにはいられず、忘れられず、六十数年前の出来事を回顧致しながら綴ってみることに致します。

私は昭和五(一九三〇)年五月十二日、阿武隈の山あいの津島村(現浪江町)に生まれ、今年八十歳になります。

兵隊さんの出征を見送る

小学校高学年の頃、昭和十六年十二月八日戦争が始まりました。津島村のバスの駅から、兵隊さんが出征して行きました。小さな丸の旗を振りながら、婦人会の人達にまじり見送りました。駅はいっぱいの人集りでした。婦人会は「国防婦人会」というタスキ



### 戦時中の思い出

原町区馬場 羽根田ヨシ

を白い割烹着の上にかけて姿でした。村長さんの挨拶にはじまり、兵隊さんは「銃後の守りをよろしく」という様な言葉が入っておりました。

千人針というものを、あちこちで赤い糸で縫って、これを持たせてやったようでした。「兵隊さんへ」という手紙も何回か書いて出しました。

#### 婦人会や青年団の行進訓練

また、私の家の近くに小学校の運動場があり、村の婦人会や青年団の人達の行進訓練を見に行ったものです。四列に並んでの行進は、足と手を一緒に動かす人があちこちにいて、今では考えられない光景に笑いながら見ていました。「イチニ、イチニ」の号令があり、一段と高い所に軍服姿の偉い人がおり、その前を通る時、班長の人が「カシラー」という号令に一斉に右を向き、一生懸命でした。

#### 竹槍の訓練など

##### 今では馬鹿げたことですが

若い人達は「近くに爆弾が落ちた」という想定で、一列に並んで水の入ったバケツリレーで火を消す訓練や、竹槍の訓練もしていました。鉢巻をして竹槍をもち勢いよく「

突っ込めー「ヤー」と走って行って人形を突く光景は、今考えると本当に馬鹿げたことですが、戦時中はそんな光景もありました。

#### 小高町の農学校に入学

小学校六年、高等科二年、そして上の学校にと進む時は勿論六年生で津島村から女学校行きはしませんでしたが、高等科卒で他校に進学するのはクラスで五、六人でした。

私は小高農学校(現小高商業高校)に入学が決まり、家を去る時、隣近所からの餞別は一円位でした。学校の授業料が五円位だったと思います。

私は兄と一緒に、小高町の今村さん宅の二階を借り自炊しますが、炊事は下で行いました。炭の七輪で御飯を炊きました。焚き付けは小高神社の裏山あたりから取ってきたものでした。今村さん宅は「へっつい(竈かまど)」というもので火を炊いていました。

#### 空襲警報で安全な所に避難

小高町にも度々「空襲警報」があり、その時は安全な所に逃げなければなりません。ある夜は今村さんの子供を一人ずつおんぶして、小高神社の前を通りぬけ、暫く行くと安全な隠れ場所があり、そこに行つたものでした。小高神社の北の八景はけの防空壕に入つたこともあり、

また、学校への服装は制服があつて、下はゴムの入ったズボンでしたが、下駄を履いて、手提げは木口のついた袋でした。

(裏面につづく)

